



ふくい

家庭菜園

改訂版

1. 野菜づくりを始める前に

野菜づくりの基礎	4
①畑や野菜の特性を知る	4
②土づくりの基礎	9
③肥料の基礎	11
④苗選びや播種などのポイント	14

2. 耕種的防除と農薬の使用

耕種的防除のための技術	18
農薬の使用について	19
主な病害虫	20

3. 野菜

根 菜 類	アブラナ科	
	小カブ	26
	ダイコン	27
	セリ科	
	ニンジン	28
	サトイモ科	
	サトイモ	29
	ナス科	
	ジャガイモ	30
	キク科	
果 菜 類	ゴボウ	32
	ヒルガオ科	
	サツマイモ	34
	ショウガ科	
	ショウガ	36
	ウリ科	
	キュウリ	40
	カボチャ	42
	ゴーヤ	44
	スイカ	46
	プリンスメロン	48
	ズッキーニ	50
	イネ科	
	スイートコーン	52
	バラ科	
	イチゴ	54
	マメ科	
	一寸ソラマメ	56
	エンドウ	58
	ラッカセイ	59
	ナス科	
	トマト	60
	ピーマン・シシトウ	62
	ナス	64
	アオイ科	
	モロヘイヤ	67
	オクラ	68

アブラナ科

ハクサイ	72
ミズナ	73
コマツナ	74
チンゲンサイ	75
キャベツ	76
ブロッコリー	77

ヒユ科

ハウレンソウ	78
--------	----

シソ科

シソ	80
----	----

キク科

レタス	82
シュンギク	84

ヒガンバナ科

タマネギ	85
葉ネギ	86
ニンニク	88

キジカクシ科

アスパラガス	90
--------	----

セリ科

セロリ	92
パセリ	94
ミツバ	96

4. 家庭で楽しむ果樹栽培のポイント

5. 果樹

イチジク	102
ウメ	104
カキ	106
ブドウ	108
ブドウの鉢栽培	110
キウイフルーツ	112
キウイフルーツの鉢栽培	114

6. 花づくりの基礎

アスター	126
小ギク	128
ケイトウ	130
パンジー	132
ハボタン	134

7. プランター栽培

あとがきにかえて

主な病害虫



うどんこ病 (カボチャ)

はじめは、葉の表面にうどん粉をふりかけたような円形の白い病斑を生じる。やがて、円形の白色病斑は拡大して葉全体に広がる。



モザイク病 (ウイルス病)

モザイク (葉色の緑色が濃淡) 症状となり葉が変形したり奇形になり、果実も変形する。アブラムシ類が媒介する。



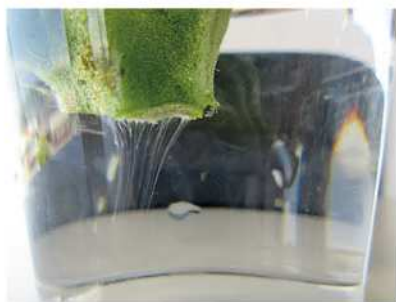
葉かび病 (トマト)

中位～下位葉に病斑ができる。病斑が拡大すると葉表は黄化し、葉裏は灰褐色などのビロード状のかびが発生する。



青枯病 (トマト)

梅雨明けから夏季の高温期に発生。急に株全体の葉が緑色のまましおれ、気温の上昇とともにしおれは回復しなくなり、株全体がしおれて枯れる。



青枯病の確認方法

コップの中に水を入れ、その中に病気にかった株の茎を切って入れる。すると、切り口から乳白色の液体が出てくる。また、水は白く濁る。



つる枯病 (スイカ)

茎や葉などに発生する。茎では最初は油浸状の病斑ができ、その後、灰白色の病斑ができて枯れる。葉では褐色の大きい病斑ができる。枯れた茎を切ってみると導管部は変色していない。



すす病 (ピーマン)

すす病は、コナジラミ類などの害虫の出す甘露 (排せつ物) に、すす病菌が寄生して発生する。



べと病 (キュウリ)

下位葉に、葉脈で囲まれた黄色の角形の病斑ができる。病斑は上位葉へと広がっていく。葉以外の部分には発生しない。



軟腐病 (ハクサイ)

最初、地面に近い葉柄が侵され、葉柄では水浸状となる。病気が進むと、被害部はとろけて悪臭を放つ。虫の食害などの傷口から病原菌 (細菌) が侵入する。

ダイコン



作業のスケジュール

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
秋 冬 (郷ひびきなど)												

播種

収穫

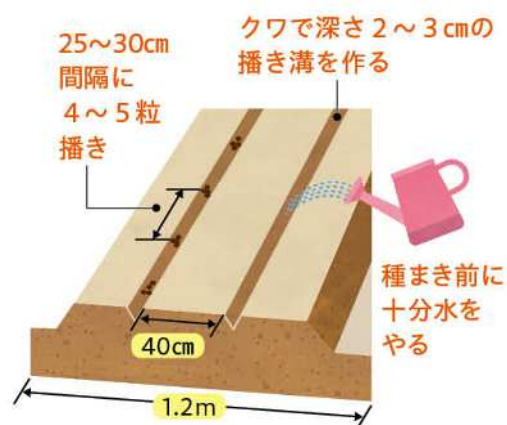
畑の準備

水はけのよい場所を選び、種まきの2週間前に苦土石灰100 g/m²を施用しなるべく深く耕します。種まきの1週間前に化成肥料60～80 g/m²を施用してから畝を作ります。畝はなるべく高く作るようにします。

播 種

種まき前に、畝にクワの幅に深さ2～3 cmの播き溝を2条(条間40 cm)つけ、平らにならしてから十分に水をやります。

次に、1ヶ所4～5粒を25～30 cm間隔に種をまき、細かい土で1 cm位覆土をします。



1回目の間引き



発芽後の管理 (間引き、追肥)

〔1回目の間引き〕

本葉2～3枚の頃、1ヶ所2～3本に間引きます。

〔2回目の間引き〕

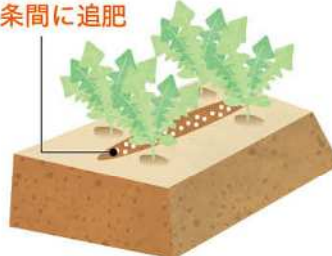
本葉5～6枚の頃、生育の早すぎるものや遅いもの、虫などの被害を受けているものを間引き1ヶ所1本にします。

〔追肥・土寄せ〕

追肥はそれぞれの間引き後、化成肥料を1回目30 g/m²、2回目50 g/m²程度条間に施用し、軽く中耕します。

土寄せは2回目の追肥後行います。葉の間に土が入らないように注意して行います。

間引き後、 条間に追肥



1回目と2回目の間引き後
に追肥する。2回目の追肥の
ときに株元へ土寄せする



葉の間に土が
入らないよう
に注意する

主な病害虫

軟腐病、ハイマダラノメイガ、キスジノミハムシ

収 穫

播種後、60日前後をめどに収穫を行います。

モロヘイヤ



作業のスケジュール

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
普通栽培						播種			収穫			

畑の準備

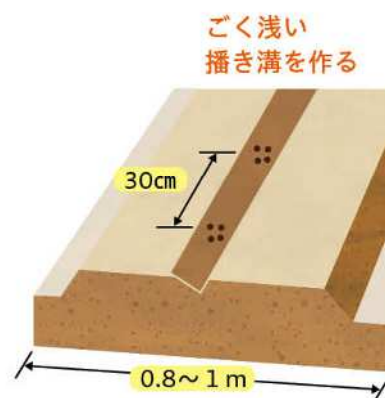
種まきの2週間前までには堆肥3kg/m²と苦土石灰100g/m²を施用してよく耕し、種まき1週間前に、化成肥料80g/m²を施用し、畝幅0.8～1m程度の畝をつくります。

播 種

モロヘイヤは発芽適温が25～30℃と高温性の作物なので、地温が十分上がってから播種するようにします。

播種するときは、タネをぬるま湯に半日つけてからまくと発芽がそろいます。

播種方法は、種を1ヶ所4～5粒を30cm間隔に点まきします。覆土は2mm程度に薄くかけます。



播種後の管理

〔間引き〕

発芽後、本葉が3～4枚のところに1ヶ所1本立ちにします。

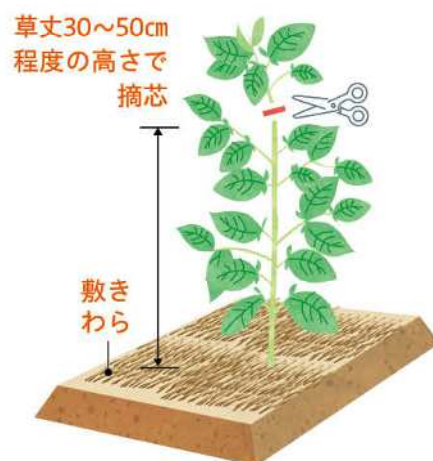
〔摘芯・敷きわら〕

草丈が30～50cm程度になったら、分枝を促進させるため摘芯を行います。

また、この頃から梅雨明けまでには敷きわらを施し、夏季の乾燥防止を図ります。

〔追 肥〕

収穫が始まったら、20日おき程度に畝の肩に化成肥料を30～40g/m²施用します。



主な病害虫

アブラムシ類、ハダニ類

収 穫

分枝したものが20～30cm程度になれば、基部の方を2～3節残し収穫します。利用するのは先端の15～20cmを用います。なお、実や種は有毒ですので絶対に食べないように注意します。



コマツナ



作業のスケジュール

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
春まき (ひとみなど)						播種	→	→	→	→		
秋まき (さおりなど)	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→

畑の準備

種まきの2週間前までに堆肥2 kg/㎡と苦土石灰100 g/㎡を施用し耕します。種まきの1週間前に化成肥料80～100 g/㎡を施用し畝幅0.8～1 mの畝を作ります。

播 種

種まき前に幅1～2 cm、深さ1 cm程度の浅いまき溝を15～20 cm間隔につけ十分灌水をします。播種は2 cm間隔に種をまき、溝の両側の土を薄くかけ手で押さえます。覆土が厚いと発芽が悪くなるので注意します。種まきを1週間おきに2～3回に分けて播くと収穫が一度にならず、長く楽しめます。

発芽後の管理

〔間引き〕

本葉2～3枚の頃5 cmの株間になるよう、発芽の遅れたものや徒長している株を間引きします。

〔追 肥〕

間引き後、化成肥料を条間に30～40 g/㎡施用し、土に軽く混ぜる程度に打ち込みをします。

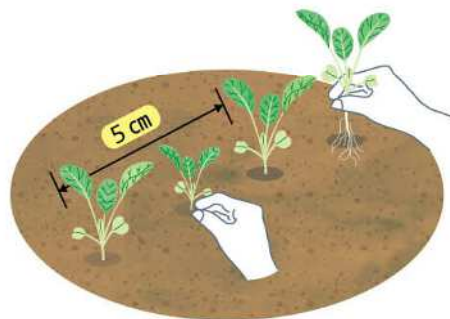
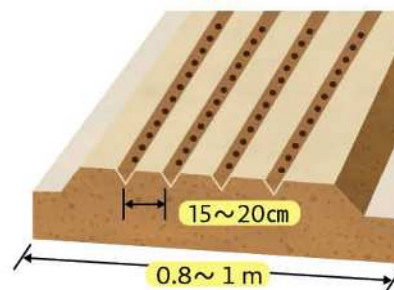
主な病害虫

白さび病、キスジノミハムシ

収 穫

本葉4～5枚、草丈が20～25 cm位になったら順次間引き収穫します。収穫が遅れると品質が低下しますので、穫り遅れに注意します。春は45～55日、秋は50～70日位が目安となります。

幅1～2 cm深さ1 cmの播き溝



本葉2～3枚頃に、生育の遅いものや、徒長しているものを間引き5 cm間隔に



間引き後、条間に追肥し、軽く打ち込む